業務説明会の実施について

対象国名：全世界
業務名称：共創・イノベーションによる実証実験及びコレクティブインパクト創出のためのコミュニティ形成に関する調査業務

標記案件につき、11 月 21 日（木）に業務説明会を実施しましたので、その際の投影資料と、説明会の中での質疑応答を掲載します。また、投影資料の最終ページにございますリンク先から、ご意見・コメントを募集しております。頂いたご意見・コメントにつきましては個別に回答致しませんが、業務指示書へ適宜反映させていただきます。

コメント締切：2024 年 11 月 26 日（火）12:00 （日本時間）

事業部担当：企画部イノベーション・SDGｓ推進室
（pdis@jica.go.jp）

国際協力調達部担当：契約推進第二課
（Toyoura.Taishu@jica.go.jp）

別添：業務説明会投影資料、質疑応答

共創・イノベーションによる実証実験及び
コレクティブインパクト創出のためのコミュニティ形成に関する調査

2024年11月21日(木) 15:00 – 16:00
JICA企画部

※本説明会の内容は公示までに変更となる可能性があります

1. 背景 10min

2. 取組案 15min

3. 業務のポイント 5min

4. 質疑応答 30min

1. 背景 10min

2. 取組案 15min

3. 業務のポイント 5min

4. 質疑応答 30min

背景

複雑で膨大な社会課題の解決に向け、「共創（Co-Creation）」と「革新（Innovation）」が一層求められている

課題の複雑性	✓ グローバリゼーションと相互依存の世界で、途上国も日本も複雑な地球規模課題に直面 ✓ これまでの手法では不十分な課題に対するイノベーティブな取組も急務
膨大な開発資金ニーズ	✓ 2030年までの折り返しを過ぎた今、SDGs達成には年間4.2兆ドルの資金ギャップが存在 ✓ 途上国への資金流入の大半は民間資金であり、ODAの「触媒」的機能が求められている
双方向の協力	✓ 途上国とのパートナーシップに基づく、日本社会の課題解決・本邦アクターの動員を含めた双方向の国際協力がますます重要になっている
開発の担い手の多様化	✓ 途上国－JICAだけでなく、企業や自治体、市民社会、アカデミアなど多様なアクターの参画が加速し、多様なアクターの連携によるコレクティブインパクト創出の重要性が高まっている

（開発協力大綱（2023年改訂）より抜粋）
「誰も明確な解を持たない複雑に絡み合った開発課題が山積する時代においては、共通の目標の下、**様々な主体がその強みを持ち寄り、対話と協働によって解決策を共に創り出していく共創が求められる。**」

背景

JICAでは「共創」と「革新」を掲げ、様々な取組を推進

イノベーション推進の活性化

新分野開拓、新技術の導入

- カカオ産業の**児童労働等**の課題解決に向けた企業等との共創・協働の場
- **高精度3D測量解析技術**を用いた文化遺産保全・観光振興のパイロット

多様なパートナーとの共創

- **多様な人材**とのオープンイノベーション：JICA Innovation Quest
- **高専生**のものづくり力を途上国の課題解決と日本の地方創生に活用
- **Jリークラブチーム**の国内社会貢献活動の東南アジアへの波及

途上国と日本国内双方の課題解決

- 技能実習生を主とする**外国人材受入**とODAの効果的な協働プログラム
- **昆虫の利活用**を通じた途上国の農家の収入向上・栄養改善の実証実験

スタートアップ連携の強化

社会課題解決のための社会起業家・スタートアップへの協力メニュー拡充

- **社会起業家**の育成・拡大（Project NINJA）
- 中南米に進出する**日本発スタートアップ**への協力（TSUBASA）
- **海外協力隊経験者**の起業支援（BLUE）

サステナブルカカオプラットフォーム

JICA Innovation Quest

外国人材受け入れ

※本説明会の内容は公示までに変更となる可能性があります

JICAのスタートアップ連携・イノベーション創出支援

スタートアップ成長段階	プレシード	シード	アーリー	ミドル／レイター
成長のためのニーズ	● 育成プログラム	● 起業家育成（育成プログラム） ● 技術開発、技術・ノウハウの市場検証（PoC／PMF）支援 ● ビジネス開始に係る技術的支援 ● Seed Start-upへのEquity出資	● リスクマネーの提供 ● 民間資金（出融資）とのBlendedファイナンス	● 成長・拡大資金の提供 ● 民間資金（出融資）中心のファイナンス
日本企業向け		[中小企業・SDGsビジネス支援事業（JICA Biz）]		
		[中南米：TSUBASA] 米州開発銀行グループの基金（IDB Lab）と連携	[出資・融資（海外投融資）]	
		[海外協力隊経験者の起業支援（BLUE）] 先行事例の紹介・展示、起業支援、企業・自治体とのマッチング		
現地企業向け	[ソーシャル・イノベータ・ハブ] 留学生・研修事業を活用した、日本の大学・研究機関、企業等と途上国人材によるソーシャル・ビジネス共創の場	[アフリカ：現地企業対象のアクセラレーター運営支援] ◆アフリカ連合開発庁（AUDA-NEPAD）によるHome Grown Solutions （HGS）アクセラレーターの運営を支援 ◆多様なパートナーとのプラットフォームを形成し、社会課題解決に資する現地企業に経営支援を提供		
		[Project NINJA] アフリカからアジア・中南米にも展開	[出資・融資（海外投融資）] 現地企業／現地企業支援ファンドへの出融資	

※本説明会の内容は公示までに変更となる可能性があります

1. 背景 10min

2. 取組案 15min

3. 業務のポイント 5min

4. 質疑応答 30min

調査業務の概要（業務説明会時点）

目的	国内外の様々なアクターを含むJICA内外の人材・アクターのニーズ・リソースを把握し、アクター間のマッチング、アイデアの共創促進、共創アイデアの実証実験の実施、及び事業プラン等の構築の支援等を含む具体的な共創プログラム（以下、「本プログラム」）を試行することで、開発インパクト拡大に資する共創を促進するための効果的かつ持続可能な体制・仕組みについて調査する。
パートナー	✓ 東京都内及び地方の共創施設（インキュベーション／アクセラレーション施設） ✓ 国内外の民間企業（スタートアップを含む）、市民社会（CSO）、アカデミア（大学、高専、研究所）、公的機関（地方自治体、政府関係機関） 等
契約形態	コンサルタント等契約（業務実施） 企画競争
規模感	約26人月（海外渡航回数5回を目安）
期間	2025年2月～2026年2月
スケジュール（予定）	**11/26（火） 意見締切 → 12/11（水） 公示 → 2025/1/7（火） プロポーザル締切・契約交渉 → 2月 契約開始**
その他	実証実験の実施については再委託を認める

※本説明会の内容は公示までに変更となる可能性があります

本プログラムのロジックモデル（業務説明会時点）

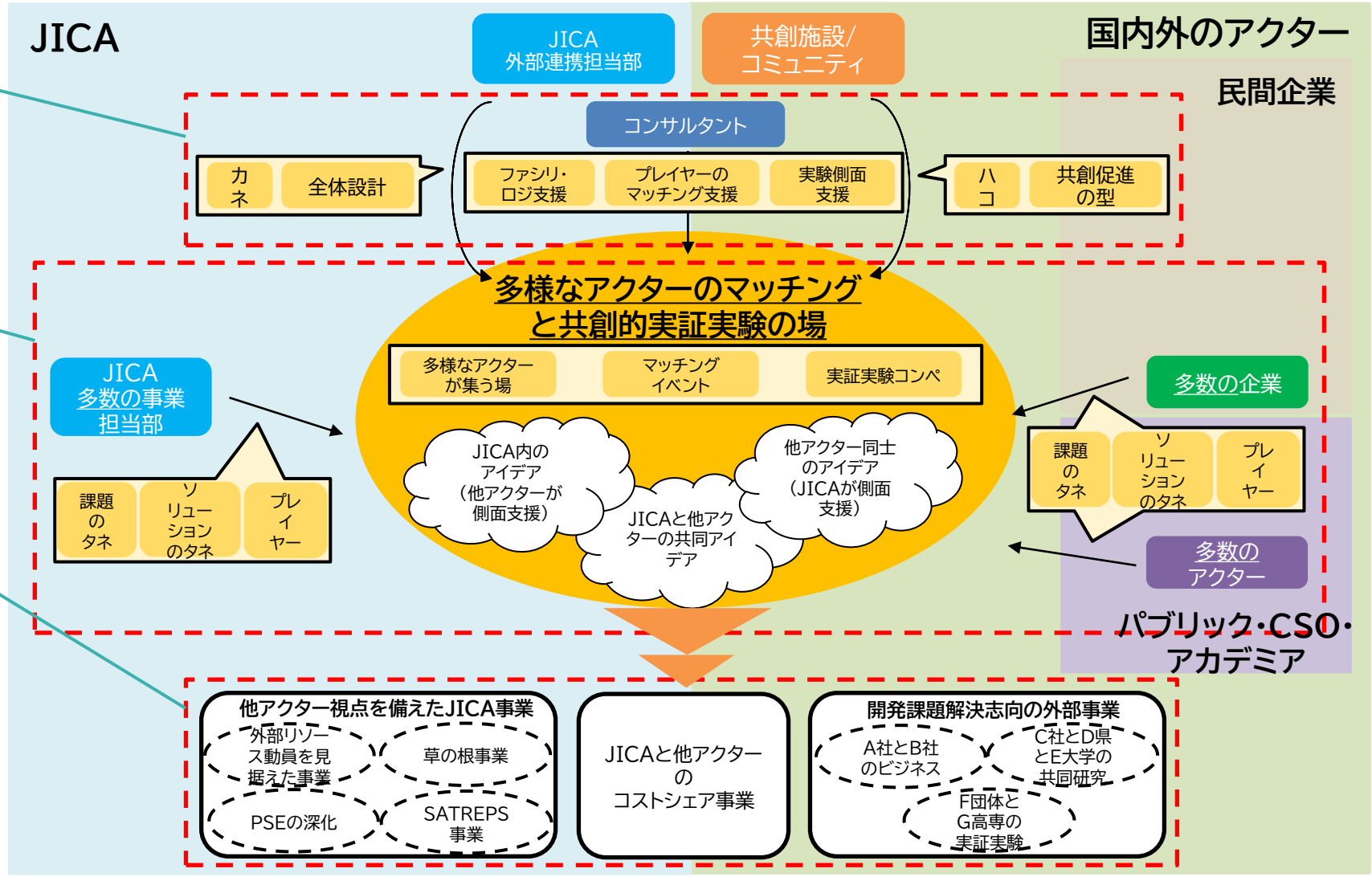
開発インパクト拡大に向け、多様なアクターの共創を促す場作りと革新的な共創アイデアを実証実験する仕組を試行

インプット
多様なアクターの共創を促す場づくり、及び革新的な共創アイデアを実証実験する仕組みの全体設計、運営、共創施設やJICA内外の関係者との連携推進・参加勧奨などを行う

アウトプット
国内外の多様なアクターが参画し（ニーズ、シーズ、ヒト、カネ、ネットワーク、場等を提供し）、多様なアクターのマッチングを通じた革新的な共創アイデアの創出と実証実験が行われ、共創による新しい価値創出の可能性が探索される

アウトカム（本事業中の成果）
生まれた共創アイデアの中から、本プログラム以外の予算やリソース（JICA予算か否か問わず）を獲得し、事業として継続して試行されるものが生まれる

インパクト（中長期の成果）
本プログラムから生まれた試行事業（アウトカム）が自立的に持続し、本格的事業となって開発インパクト創出が加速されるとともに、共創の実証実験から開発インパクト創出につながるプロセスが持続的に起こるエコシステムが形成される



※本説明会の内容は公示までに変更となる可能性があります

業務概要（業務説明会時点）

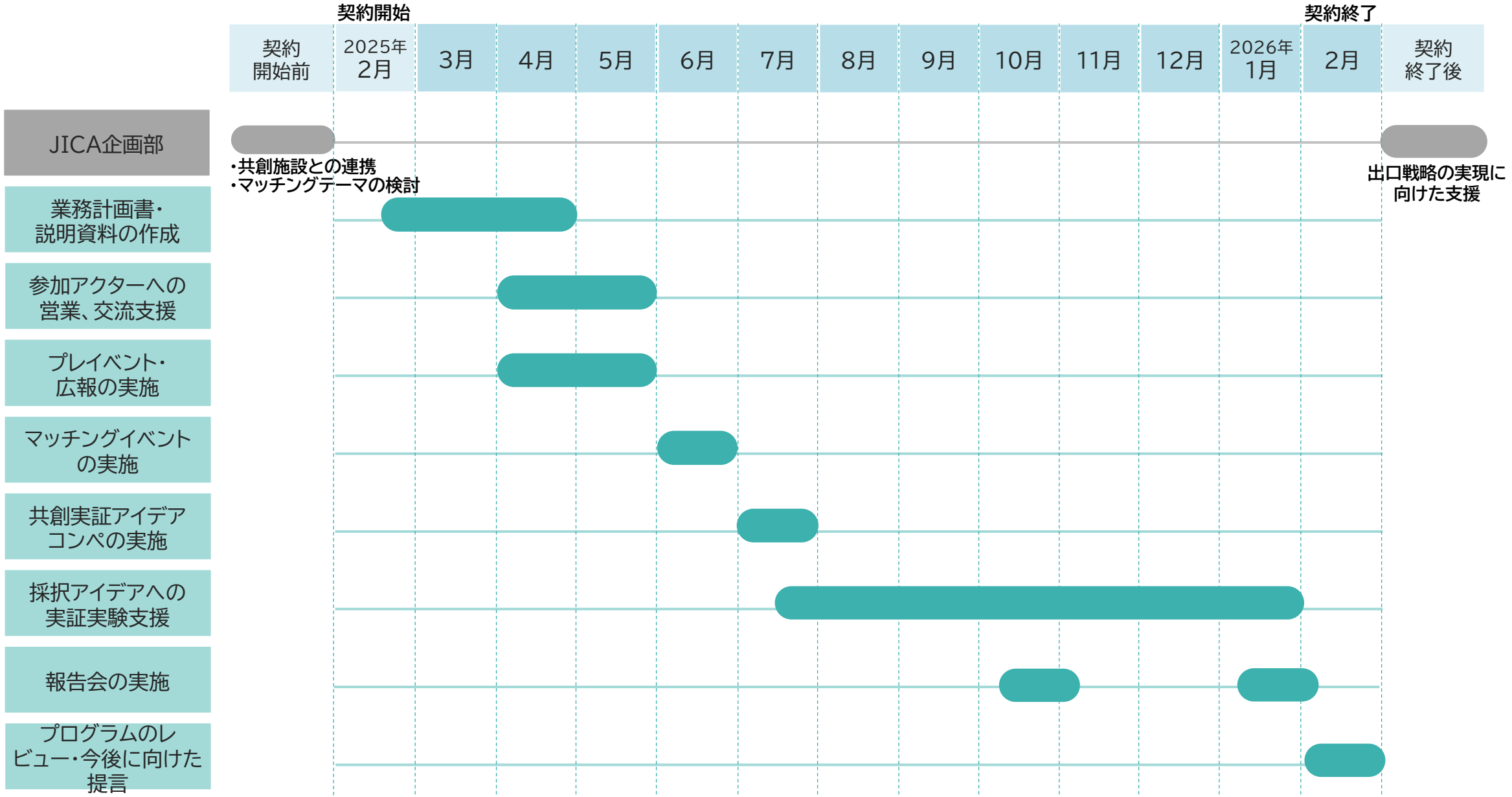
開発インパクトの創出のための共創事例の創出件数（アウトカムの達成状況）をKPI（案）として以下の業務に取り組みます

JICA企画部	（契約開始前）	• 連携する共創施設を選定し、**連携プログラムのコンセプト**を策定する。 • マッチングイベントの**大テーマを設定**し、JICA内部（テーマ関係部署等）の参画を確認する。
	（契約中）	• コンサルタント、共創施設等と協力し、**事業の全体設計・運用**を行う。 • 共創アイデアの実証実験や出口戦略において、JICAの有する**ネットワーク、知見等のリソースで伴走支援**する。

本業務の概要	業務計画書・説明資料の作成	本プログラム全体のコンセプトを踏まえ、**各関係アクターの価値訴求ポイント**を検討し、参加勧奨・広報用の**説明資料の作成**を行う。
	参加アクターへの営業、交流支援	マッチングイベントに幅広い国内外のアクターに参加してもらうため、効果的、効率的な営業を行う。参加が望まれる国内外のアクターには直接の**営業・参加勧奨**を行う。海外からどれだけ多くのアクターの参画が得られるかがポイント。参加に前向きなアクターには、プレイベント等の機会も活用し、マッチングイベントの効果的な実施のために**事前の交流機会やインプットの機会を提供**する。
	プレイベント・広報の実施	マッチングイベント及び実証実験アイデアコンペの参加勧奨を目的とした**広報イベント**を2回実施する。 開催場所は協働する共創施設及びオンラインの**ハイブリッド**を想定する。
	マッチングイベントの実施	共創施設を活用し、実証実験アイデアコンペへの提案を含む、多様なアクター間の共創アイデアの創出を促すことを目的に**マッチングイベント**を開催する。**東京・地方計2か所の共創施設で各1回**、プレイベントと同様、**ハイブリッド**での開催を想定。それぞれでSDGs等のテーマを設定して実施する想定。会場キャパシティは東京400名、地方100名程度を想定。
	実証実験アイデアコンペの実施	本業務内で実証実験を行うアイデアを選定することを目的に**コンペを開催**。書類審査、公開プレゼン審査を通じて、クライテリアに沿った**実証実験アイデアを選定し、結果を公開・広報する**（JICAから一定程度の予算措置を行うアイデアは10件程度）。
	採択アイデアへの実証実験実施・伴走支援	実証実験は、各提案者が主体となって行うが、受注者は国内外の関係者とのネットワーク形成や限られた期間内で成果を得るための計画策定、実施プロセスの支援や、進捗のモニタリング、JICAから各提案者に付与された予算の管理等を行う。実証実験後に本プログラム外の予算・リソースを獲得し自立的に実証アイデアが発展していくために、実証実験の伴走と並行し、事業モデル等の構築やファンドレイジングを含む**出口戦略の検討**を支援し、必要に応じて出口戦略の実現に向けた**資金獲得や更なる協力先開拓**のための営業を行う。途上国現地での調査が必要な場合現地調査支援も行う。
	報告会の実施	中間・最終報告会を公開イベントとして実施。共創アイデアに新たなアクターの参画を得る、資金獲得する場としても活用。
	プログラムのレビュー・今後に向けた提言	次年度以降の実施・継続に向け、実施結果を踏まえたレビューと（コスト削減を含む）改善案をまとめる。国内主要都市の共創施設の情報収集・整理、資金動員の可能性のある国内外の金融機関（VC含む）、政府・自治体の補助金事業、財団等の情報収集・整理も行い、今後に向けた提言をまとめる。

業務スケジュール（業務説明会時点）

※本説明会の内容は公示までに変更となる可能性があります



1. 背景 10min

2. 取組案 15min

3. 業務のポイント 5min

4. 質疑応答 30min

業務実施上の重要なポイント

項目	ポイント
共創施設との連携	● 本事業の実施にあたっては、**東京都内・地方の共創施設**（多様なアクターの結節点としてコミュニケーションの場や機会を提供している施設）**2か所との連携**を合意し、本プログラム参加者間の**交流の拠点**として活用可能な場を本契約の開始までに設置する予定。 ● 同施設は、本プログラムの**マッチングイベント等の開催地**とするほか、共創施設の実施する**各種プログラム**（アクセラレーション、交流）や、**共創施設の利用者・関係者（法人含む）のネットワーク**を、本プログラムの参加勧奨・広報や、本プログラムの効果拡大のために活用することを想定する。詳細は、本契約開始後に協議する。
JICAの各部・既存事業との連携	● JICAは本契約開始までに、東京都内・地方の共創施設2か所の**マッチングイベントのテーマ**（SDGsに沿ったものを想定）を仮決定し、同テーマに沿ったJICA内関係部・関係者の本プログラムへの参画を確認する。 ● 受注者は、**各テーマの関係部とも協議を実施し、本プログラムの内容の詳細化**を行う。特に、テーマに関する各部の実施中・計画中の事業との連携や相乗効果発現の可能性を高めることを念頭に、マッチングイベントの内容や、実証実験アイデアコンペの採択方針、実証実験支援の内容等を検討し、実施する。

業務実施上の重要なポイント

項目	ポイント
海外アクターとの連携	● 海外アクターとの連携は、日本国内の会場で実施する本プログラムの付加価値を高め、実証実験の結果を開発インパクト創出につなげていくために非常に重要。海外アクターとの連携をより効果的に実施するための具体的な方法については要検討 ● **実施中の**プロジェクトで関係するカウンターパートや、民間セクター開発にかかわるアクセラレーターやベンチャーキャピタル、民間企業・大学等のプレーヤー等の参画がスムーズになるよう、**英語での情報発信や、マッチングイベント・実証実験アイデアコンペや個別面談へのオンラインでの参加方法等連携のための方策を検討・実施**する。
対外広報・発信	● 本プログラムでは、国内外の民間企業、CSOやアカデミア、他の公的機関等を含む**多様なアクターの強みやリソースを活かした共創による価値創出**を目指し、将来的には、JICAがこのような共創・革新に積極的に取り組んでいるという国内外からの認識・評価を得ることも目指している。**本プログラムのブランディング**を十分意識したうえでの、積極的かつ効果的な対外発信・広報について要検討
マッチングイベントの実施方法	● 本プログラムの成否はマッチングイベント次第といっても過言ではなく、**多数のアクターの参加を得つつ有意なマッチングの実現**につながる効果的な実施方法について要検討
実証実験アイデアコンペの実施方法	● 実証実験アイデアコンペについては、その**実施や採択アイデアの選定方法によって結果が大きく左右される**ことが想定される。KPIを念頭に、採択アイデアの選定方法を含め実証実験アイデアコンペの実施方法についてより効果的な方法を要検討
採択アイデアへの実証実験支援方法	● 採択アイデアの実証実験の実施のための伴走支援については、**期間内に、その後の継続、自立のための資金の確保を含む出口戦略も見据えた効果検証**等が行えるよう、支援体制等についてより効果的な方法を要検討

※本説明会の内容は公示までに変更となる可能性があります

1. 背景 10min

2. 取組案 15min

3. 業務のポイント 5min

4. 質疑応答 30min

事後アンケートにご協力ください

皆さまからのご意見・ご感想を踏まえた公示内容への反映のために活用させていただきます。
※アンケート上でご質問を頂いてもご回答致しかねますので、ご了承ください。

https://forms.office.com/r/q4hsYnQ0xc

ご回答は、11月26日正午まで

2024 年 11 月 21 日

業務説明会議事録

業務概要につき、別添に沿って企画部より説明。質疑応答の概要は以下の通り。

No.	質問	回答
1	プレ公示ではインキュベーション支援との記載があったと思うが、今回の説明で言うところのマッチングがそれに該当するのか。インキュベーションであれば、スタートアップ（SU）の育成、投資家を含めたネットワーキング、メンタリング等を想定していたが、マッチングというのは一定程度育っている SU と様々なアクターなどとのマッチングが主眼という理解でよいか。	基本的にご理解のとおり。マッチングイベントが重要なタイミングとなるが、それ以前にも広報イベント等を実施することを想定しており、その過程を通じて、実証実験アイデアコンペまでに共創アイデアを作り込んでいただくことを想定。
2	対象国／地域について、基本的には日本国内でオペレーションする理解ではあるが、SU の所在地やマッチング先の企業等は日本に限定しないという理解でよいか。	民間企業、アカデミア等の多様なアクターについては、海外のそれらも含めて考えている。非常に幅広いアクターを巻き込んでいくことを想定。
3	実証実験（POC）の費用を JICA が支援することを想定しているか。	多額ではないが、若干の金額を支援することを想定。特記仕様書にて具体的に記載予定。
4	・ ファンドレイズは、必ずしも SU の資金調達のみを想定しているわけではないと理解したが、想定している具体のイメージはあるか。 ・ （右に記載の JICA からの回答を聞いた後、）JICA の手を離れても自走していくための資金へのアクセスの確保を目指	SU 同士の連携や、SU と大企業の連携においては、ベンチャーキャピタル（VC）等からの資金調達が想定されるが、本件では多様なアクターを想定しており、例えば大学が絡む共創では競争的資金の獲得や、アクターによっては自治体の補助金の活用など、より幅広く資金動員を考えていく必要があると考えてお

	すことと理解。	り、それらをファンドレイズと捉えている。
5	KPI（共創事例の創出件数）について言及があったが、ここでいう共創とは、どの程度を想定しているか。例えば、複数のアクターが連携を決めて覚書を結ぶところまでが必要なのか、マッチングイベントで連携に向けた対話が前進するところまででよいのか等、具体的なイメージを知りたい。	KPI の精緻化は契約が決まった後ご相談できればと考えているが、恐らく、マッチングイベントで対話が進んだ程度では共創事例としてはカウントしない想定。
6	実証実験採択アイデアの件数はいくつか。	10 件程度を想定。
7	連携する共創施設についての提案もコンサルタント業務のスコープに含まれるのか。あるいは共創施設については JICA の指定が所与のものとなるのか。	ご質問の点は特記仕様書にて明示予定。
8	・ 海外渡航は 5 回が目安とされているが、いつ、どの活動に対して海外渡航する想定か。 ・ （右に記載の JICA からの回答を聞いた後、）資金の獲得や協力先の開拓等も含めて実証実験期間中に集中的に行う想定と理解。	基本的には実証実験期間中を想定。
9	・ マッチングそのものはイベントを通して実施する理解で正しいか。たとえば、マッチングの方法としては、採択する SU を決めてからマッチングを支援する形もあると思うが、マッチングするまでは各アクターへの個別的な支援は行わないという理解で正しいか。 ・ （右に記載の JICA からの回答を聞いた後、）仰るとおり、マッチングイベントだけで効果的なマッチングは難しい側面があり、前後も含めた提案が求められるものと理解。	マッチングイベントは出会いの具体的な場ではあるものの、それ以前のプレイベント等の機会を通じて、マッチング確度をあげるための個別のコミュニケーションも重要であり、マッチングイベントまでの仕込みも必要と考えている。

以上